

“木を植えて 育てて活かす 緑の力” をあなたの手で!!



■表紙写真 題名:製材所のプロ 撮影場所:浜松市天竜区春野町 撮影者:青嶋 隆男氏(浜松市)

## INDEX

本誌はホームページでも掲載しております。是非ご覧下さい。URL : <http://www.moritohito.jp>

2 首長は語る (No.31)  
世界に輝く『静岡』の創造

3 支部だより①  
光と水と緑のまち

4 支部だより②  
『現地踏査』とは

5 県庁だより①  
今動かねば、いつ動く!? 森林・林業の再生を目指して

6 県庁だより②  
「特定鳥獣保護管理計画(ニホンジカ)」

7 県庁だより③  
「森林経営計画」は難しい!?

8 本部情報  
優れた森林土木工事は、優れた技術力から

8 事務局だより

別冊折込

平成24年度しずおか森林写真コンクール入賞作品



# 首はる 長語

● No.31



日本平お茶摘み

## 世界に輝く『静岡』の創造

静岡市長 田辺 信宏



きない事だと思ひます」と驚かれたことがあります。

信号があれば時間的なロスが生じたり、排他的になり易いのですが、人も車もそれぞれが認め合い譲り合いの精神で上手に通行しています。このことにも、静岡市民の人柄が表れていると思ひます。

### 静岡市の魅力

静岡市の森林は、県全体の21%を占め、市の76%が森林という森林都市であります。また、駿河湾の海の風景も素晴らしく、お茶、シイタケ、ワサビ、シラス、サクラエビなど枚挙に遑(いとま)がないほど、山の幸、海の幸に恵まれた自然環境の豊かな政令市でもあります。

歴史的資源も豊富で、弥生時代の登呂遺跡を初めとして、駿河国府、駿府城など人の営みの中で培われてきた文化的土壌も有しております。

### ひとの魅力

市民は、のんびりして、穏やかでおもてなしの心があって、豊かな気持ちを持った人柄だと思っております。

よそから来た人に、札の辻(静岡伊勢丹の角)の交差点について、「人も車も非常に多い交差点なのに信号機がありませんね。それでいて事故がない。これは静岡市民の民度が高くないとで



▲畑薙大吊橋

### 森林・林業への思い

静岡市には広大な森林があります、しかし、急傾斜地が多いために搬出コストがかかるなど、木材生産すなわち林業として考えた場合、費用対効果は非常に厳しいと言わざるを得ません。

しかし、森林の持つ公益的機能については、市民一人ひとりが恩恵を受けております。都市部の住民にこの公益的機能について知って頂くことが森林を理解していただく第一歩だと考えます。まずは、そのことから市民にアピールしていきたいと考えております。

### 森林を守る人づくり

森林を健全に守り育てるためには、森林に係る人材(ひと)が必要です。市では「中山間地域総合振興計画」を策定し、集落の再生を進めております。

中山間地域に移住していただくために、空き家住宅について所有者と移住希望者とをつなぐ「中山間地域空き家情報バンク」や、移住促進のモデル事業として「移住モニター制度」を実施しているところです。

これからは人口の社会増はあまり期待できないので、学生、留学生、転勤者そして観光客など交流人口を増やすことが重要だと思ひます。静岡には年間2,500万人の人が訪れていますが、宿泊される方は約150万人と6%弱であります。札幌などの他の都市と比べ

ると非常に少ない。このウエイトを高めることにより様々な効果が期待できると考えております。

### オクシズキャンペーン

その一環として、「オクシズ キャンペーン」を進めています。新東名の開通により静岡市北部へのアクセスが大変便利になりました。この機会に北部地域への交流人口の増を図ろうというものです。自転車レースのツール・ド・安倍峠、玉川トレイルランニング、薬科、井川のパラグライダーといったスポーツツーリズムに、市営温泉などの健康施設をネットワーク化させながら、「オクシズ」のひとつのイメージを作っていこうとしています。

まずは、小さな一歩ということで、使い勝手の良い清潔で綺麗なトイレの整備から優先的に取り組んでいるところです。



▲玉川トレイルレース

### 民間力の活用

井川地区では、民間組織による「井川源流域森林再生協議会」が設立され、木材の利用、森林の再生に取り組んでいます。民間力を活用することは大切なことだと思ひます。

その他、南アルプス地域では、JR東海による、「リニアプロジェクト」が動いており、大自然を保全していくためには、問題が無い訳ではありませんが、この機会に南アルプスへのアクセスを善くする道路整備にJRにも協力していただき、交流人口の増大を図っていききたいと考えております。

森林を守り育てていくためには、中山間地が元気で、活力に満ちていなければなりません。そのためには、多くの人々がこの地に訪れる仕組みを構築し、「オクシズ」を元気にしていきたいと考えております。



# 支部だより①

## 光と水と緑のまち

### 南伊豆町 産業観光課

「明るく希望の持てるまちづくり」を目指している南伊豆町、産業観光課からは、伊豆半島の特徴的な自然を楽しめるポイントを紹介していただきました。



▲「下賀茂温泉」の湯煙

に選ばれ、夏にはたくさんの海水浴客が訪れます。また、「下賀茂温泉」には気軽に温泉を楽しめる、日帰り施設「町営温泉 銀の湯会館」があり、人気を集めています。

### 長者ヶ原山ツツジまつり

自然豊かな伊豆最南端に位置する本町。伊浜地区の長者ヶ原には12,000株の山ツツジが自然のままに群生しています。5月上旬から5月下旬には丘陵一面が朱色に染まり、見る者を圧倒します。高原のさわやかな風の中で散策すると、ゆったりとした時間が流れ、日常の慌ただしさを忘れさせてくれます。元は荒れ果てた雑木林の中で、たくましく生き延びた山ツツジの群生をぜひお楽しみください。



▲遊歩道から見える絶景

### 伊豆半島最南端の町 南伊豆町

伊豆半島の最南端に位置する南伊豆町は、天城山脈に連なる山地が広がり、町域の8割以上を山林や原野が占めています。県下でも有数の温暖な気候であり、南国果実や熱帯植物が栽培されています。

本町の東と西はそれぞれ相模灘、駿河湾に面しており、リアス式海岸や透明度の高い海が広がっています。その中で、穏やかな弧を描いた弓ヶ浜は「日本の渚百選」や「快水浴場百選」



▲長者ヶ原山ツツジまつり

### 南伊豆町の遊歩道

本町には、7つの遊歩道があります。自然に形成された素晴らしい景観を堪能でき、雑誌やチラシに載っていない本町の絶景を楽しむことができるコースになっています。海岸沿いを歩くコースから山あいを歩くコースがあり、

所要時間も1時間から3時間程度までのコースがあります。上級者向けコースの「南伊豆歩道・吉田・妻良」コースでは、樹の幹に「きづた」、「ふくろうかづら」などのつる性植物が繁茂した、まさに緑一色のジャングルのような景観を楽しむことができます。ベンチが設置されている展望所まで登れば、奇岩奇勝が連なる「名勝伊豆西南海岸」の断崖を望むことができます。本町の山と海を同時に楽しめるコースなので、興味のある方にはぜひ挑戦していただきたい遊歩道の一つです。

### ジオパーク

平成24年9月24日付けで、伊豆半島ジオパークの日本ジオパークネットワークへの加盟（日本認定）が決まりました。伊豆半島の歴史は、約2000万年前にさかのぼります。当時の伊豆は本州からはるか南のかなた数百km先の太平洋の海底にあった火山群でした。その後、プレートの北上の動きに合わせて、日本の本州に衝突して現在の半島の形になりました。



▲ジオサイト（ユウスゲ公園）

伊豆半島ジオパークは、特異な成り立ちと地学的な現状を踏まえて「南からきた火山の贈り物」をテーマにしています。本町では、ユウスゲ公園を筆頭に、伊豆半島の特徴的な自然を楽しめるポイントが数多くあります。また、本町では、伊豆地区で初となる常設のビジターセンターを開設しました。今後は、世界認定を目指し、人と自然の共存を世界にPRできるように尽力していきます。



# 支部だより②

## 『現地踏査』とは

### 掛川市森林組合

入組9年目、掛川市森林組合の今橋さんからは「現地踏査」について語っていただきました。

掛川市森林組合は、掛川市北部に位置する、田んぼと茶畑と山ばかりののどかな風景の中にある森林組合です。今年4月に新東名高速道路が開通し、私が入組したころとは、風景が一変したところもありますが、相変わらず静かなところではあります。

私は掛川市森林組合にお世話になって、9年目になる「今橋」と申します。今回は日々の業務の中のひとつである、『現地踏査』について書かせていただきます。

現地踏査は、森林整備事業を実施する前に土地所有界や森林状況などを把握するためにいきます。

踏査を進めていくうち、尾根や沢や斜面など、どこでも歩きまわり、一日の歩行距離も長くなります。今までは底の薄い足袋を履いていましたが、足が疲れるので、底の厚い靴に変えました。熊よけ鈴を鳴らして今日も歩いています。

山を踏査していると、様々な情報が得られます。その一つが所有界情報です。山自身が、『ここが所有界だ。』と強い手掛かりを示してくれることがあり、おもしろいと感じます。また、今まで知らなかった山の様子がだんだん分かってくるのは、自分では好きな感覚です。

所有界の情報は、自然の地形にゆだねたものや、人が意図的に作ったものがあります。一番分かり易いのは、地形を基にしたものです。例えば、沢、尾根、法肩、法尻など。人が設けたもので分かり易いのは、ひときわ大きい境界木や、境界線上を広く伐り開けて

スギやヒノキで植え分けている所有界です。何か一つ手掛かりがあれば、所有界を見出すのに苦労することはないですが、現実にはこうした情報に出会えることばかりではないので辛いところではあります。

現地踏査が終わり、ふと作業着を見るとダニが付いていることがよくあります。一匹や二匹だけではなく、かなりたくさん付いています。『しまった』と思い、ズボンをめくると、がっちり噛み付いたダニがいます。おかげで、足首の辺りは、ダニの噛まれた跡ばかりです。気温が下がる秋頃になれば、ダニが減ると聞きますが、それでも私の足にはまとわり付いてくる時があり、困っています。原因がよく分からないのでよい対処法があれば教えてほしいところです。

ダニに悩ませられながら、長距離を歩く『踏査の仕事』は、大変なことも多いですが、ひとつの仕事をまとめ上げるためには、真っ先にやらなければならないとても重要な仕事です。踏査の結果、適確な事業計画が立ち、それが実行されていく過程を見ていると、なんとも充実感があります。

最後に、掛川市森林組合のスローガンは、『生涯無事故』です。踏査の仕事に限らず全ての仕事を安全に進めていきます。



▲境界を示す石積み

いる場合です。また、プラスチック杭が打ち込まれている場合や石が積んである場合もよく分かります。立木にテープで目印をしたり、ペンキやマジックで印を入れたり、スギ、ヒノキ以外の樹種、例えばマキなどを植えている場合も目にします。少し分かりづらいのは、灌木を高い位置で伐つてある場合。もっと難しいのは、林齢や



▲大尾山からの景色



# 県庁 だより ①



▲草薙体育館完成イメージ  
(原木使用量 約5,000m<sup>3</sup>)

## 今動かねば、いつ動く！？ 森林・林業の再生を目指して

交通基盤部 森林局 森林計画課

本年は「森林・林業再生元年」と位置づけられ、平成25年の木材生産量45万m<sup>3</sup>を目指し「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」が始動しました。最終目標は、「自立した林業の確立」です。森林計画課からは、現在の状況、取り組みを伺いました。

森林法の改正や国の「森林・林業再生プラン」が本格的に動き出すなど、森林・林業の施策・制度は、大きく転換しています。

このような中、他県に先行して、いち早く「県産材の需要と供給を一体的に創造する」システムを構築し、国内の産地間競争に打ち勝つ体制を整えなければなりません。本県が単なる丸太の供給県とならないためにも、ここ2、3年が大変重要な時期なのです。

### 静岡のポテンシャルは高い！

本県のポテンシャルは、他県と比べても高く、これを最大限に活かしていく必要があります。

- ・全国平均より成熟度が高く、人工林の8割以上が伐り時！
- ・木材需要先の住宅市場は全国10位！住宅市場の50%を占める首都圏と中京圏に近く、立地もよし！
- ・水陸の交通網が発達し、木材の集積や物流網の構築が容易！

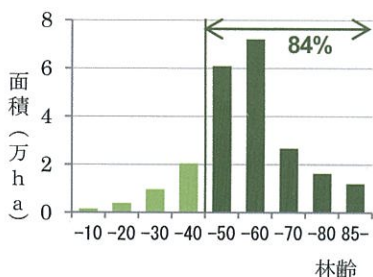


図 静岡県のスギ・ヒノキ人工林面積

### プロジェクト始動！

これらのポテンシャルの高さを背景に、今年度から「ふじのくに森林・林

業再生プロジェクト」を進めています。プロジェクトでは、外材に依存している県内の木材需要を県産材にシフトするとともに県外への売り込みを進め、資源の活用を通じた森林の多面的機能の発揮と地域の活性化を目指します。

#### ①丸太の安定的な供給 (川上)

木材の価格は、国際的な取引の中で決定されており、今後、木材価格の大幅な上昇は見込めません。このため、川上では低コスト生産システムを進め、森林所有者へ利益を還元する必要があります。そこで、低コスト生産システムの構築に向け、意欲のある事業者等に対し、積極的に支援することとしています。

取組	H25目標
森林施業の集約化・利用間伐の拡大	利用間伐面積 4,200ha/年
路網の整備	路網密度 100m/ha
高性能林業機械の導入	高性能林業機械 70セット
技術者の育成・確保	森林技術者 500人
素材生産における労働生産性の向上	素材生産の生産性 5m <sup>3</sup> /人・日

#### ②効率的な加工・流通体制づくり (川中)

川中では、県外の新たな需要先の確

保や県内への大型製材加工工場の誘致、中間土場の確保・整備など、県内外の大型製材工場等への直送に向けた効率的な流通体制づくりを進めています。

#### ③木材の需要拡大 (川下)

川下では、公共施設や公共土木工事への木材利用の拡大を進めているほか、民間の木造住宅への助成制度により、県産材の需要拡大に努めています。

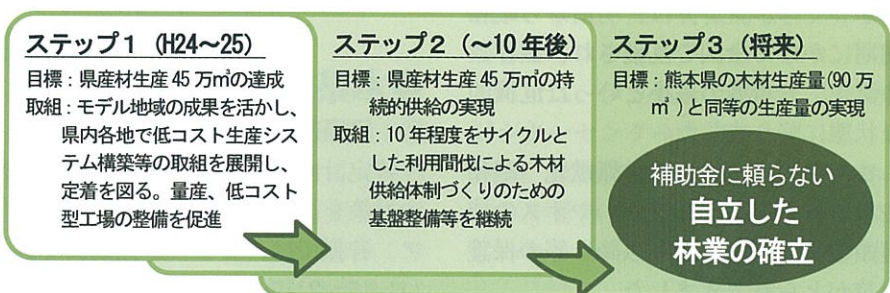
### 今がチャンス！

このプロジェクトを推進するため、本年度の森林整備関係予算は昨年度の3倍以上となっております。しかし、総額50億円の森林整備加速化・林業再生事業は平成26年度まで、年間10億円の森の力再生事業は平成27年度までの限定的なものです。

プロジェクトでは「平成25年の木材生産量45万m<sup>3</sup>」を目指して取り組んでいますが、これは通過点にしか過ぎません。最終目標は、自立した林業を確立することです。そのためには、予算が潤沢なここ2、3年が、低コスト生産システムのための基盤を整備し、木材の安定供給体制を構築する勝負の年です。ここでの成功が次のステップへの新たな取組に繋がっていきます。全国レベルに追いつき、さらに先進県の熊本県を追い越すチャンスは、この時しかありません！

### おわりに

森林は公の財産として、これまで税金が投入されてきました。財政がひっ迫する中、これまでと同様に万遍なく補助金の恩恵を受けることは期待できません。補助金に頼らない自立した林業の確立に向け、今こそ、県内関係者全体で体制づくりを進めていかなければなりません。





# 県庁だより②

## 特定鳥獣保護管理計画 (ニホンジカ) (第3期 H24~28年)

くらし・環境部 環境局 自然保護課

深刻化しているニホンジカによる農林業、高山植物への被害、自然保護課からは、被害の状況と対策について報告していただきました。

静岡県では、自然生態系や農林業へ著しく被害を与えているニホンジカへの対策として、昨年度、特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）（第3期）（以下、「特定計画」という。）を策定し、今年度から施行しています。

### ◆計画策定の目的と背景

ニホンジカは、県内全域で、生息数が過密（生息推定頭数：平成22年度末で約46,000頭）となっています。そのため、特定計画に基づく県による捕獲（以下「管理捕獲」という。）を一定期間行うことで、狩猟と有害鳥獣捕獲によって個体数を削減できる頭数（狩猟捕獲数と有害捕獲数の合計が、ニホンジカの増加数を上回る状況）まで、早急に個体数削減を進めることとしています。

県は、ニホンジカの科学的・計画的な保護管理を推進し、各地域個体群の長期にわたる安定的な維持及び農林業被害の軽減、自然生態系の劣化防止と生物多様性の保全を図ることにより、ニホンジカと人との適切な関係を築いていきたいと考えています。

### ◆県内ニホンジカの現状

#### ○ 生息状況

かつてニホンジカは、明治から昭和初期にかけて全国で乱獲され、個体数の減少、分布域の縮小といった危機的な状態に陥りました。

このため、メスの非狩猟獣化（昭和22年から平成18年度まで）やオスの捕獲頭数制限（昭和53年以降）等の保護政策がとられてきました。

これらのニホンジカに対する保護政策や、生息環境である森林の急激な人工林化に適応できたこと等により、ニホンジカは個体数を増やし、分布域も拡大することとなりました。

#### ○ 被害の状況

県内においても、ニホンジカの個体数は増加傾向にあり、スギ、ヒノキ等、造林木の枝葉の食害と剥皮による枯損の害、シイタケ原木林の萌芽の食害、果樹やイネの食害など、ニホンジカによる農林業被害は多岐に渡っています。

また、富士箱根伊豆国立公園の主要な自然生態系でもある太平洋側ブナ林や南アルプスの高山地域における「お花畑」においても、食害は深刻な問題となっています。



▲トベラを食べるニホンジカ

### ◆本県のニホンジカ対策

#### ○ 目標達成のための対策

特定計画の目標を達成するため、次の対策を講じていきます。

ア 狩猟では、わなの狩猟期間を延長（11/15~2/15→11/1~2/末日）するこ

とにより捕獲圧の強化と個体数削減に有効とされるメスジカ（個体数増加の要因の一つ）の捕獲を推進する。そのためメスジカの捕獲頭数に関する規制の緩和（メスジカの捕獲頭数は県内全域無制限。オスの捕獲頭数は一人1日1頭（ただし、わなによる捕獲に限り無制限））を図ります。

イ 有害鳥獣捕獲・管理捕獲では、生息状況に応じた捕獲を実施します。

また、今年から伊豆地域に加え、富士地域でも管理捕獲を実施します。

ウ 捕獲が難しい高山地域の南アルプス個体群においては、生態系の保護対策（防鹿柵）を実施します。

### ◆終わりに

現在の鳥獣保護管理は、狩猟者の減少による捕獲者不足や効率的捕獲技術の不足などにより、十分な効果が得られていないことから、農林業者などの狩猟免許取得による新たな狩猟者の確保、地域間の連携や地域ぐるみでの捕獲、新たな捕獲手法や体制の整備などについて取組んでいく必要があります。

#### 各地域の推定生息状況と目標頭数

地域	H22推定生息頭数(頭)	推定生息密度	期間内の目標頭数(頭)
全域	約46,000	—	—
伊豆	約21,000	約26頭/km <sup>2</sup>	約9,000
富士	約14,000	約22頭/km <sup>2</sup>	約10,000
上記以外の地域	約11,000	約4頭/km <sup>2</sup>	—

▲上記以外の地域は、詳細調査は未実施



▲防鹿柵設置後の状況（三伏峠）



# 県だより③

## 「森林経営計画」は難しい！？

交通基盤部 森林局 森林整備課

森林整備課からは、今年4月に本格稼働された「森林経営計画作成支援システム」について説明いただきました。

### ◆はじめに

今月4月に制度が始まった「森林経営計画」は、森林を面的なまとまりをもって経営するための計画とされており、その認定基準では、林班の1/2以上の面積を確保しろとか、間伐の下限量を標準伐期齢で云々とか、主伐の上限量がカメラルタキセ式とかなんとか、計画を立てるのが難しそうなことが、多々あります。そこで本県では、パソコン上で森林経営計画の認定判定ができる森林経営計画作成支援システムを開発しました。

### ◆森林経営計画作成支援システムについて

森林経営計画作成支援システムでは、森林面積・樹高・材積等の森林簿情報を取り込むことにより、パソコンで森林経営計画の伐採・造林・保育計画を作成することができます。また作成した計画が、森林経営計画の認定基準を満たしているかの判定を行うことができます。さらに「森林経営に関する長期の方針」や「森林の保護に関する事項」等の、森林経営計画書をエクセル形式で出力することができます。

計画年度(年):  平成24年度  平成25年度

現況 施業種	伐採 開始 時期	伐採 終了 時期	伐採 主間 伐	伐採方法
後期の延長	平成24/10/22	平成25/11/25	主伐	皆伐
後期の延長	平成24/10/22	平成25/11/25	主伐	皆伐
後期の延長	平成24/10/22	平成25/11/25	間伐	間伐
後期の延長	平成24/10/22	平成25/11/25	間伐	間伐
後期の延長	平成24/10/22	平成25/11/25	間伐	間伐
後期の延長	平成24/10/22	平成25/11/25	間伐	間伐
後期の延長	平成24/10/22	平成25/11/25	間伐	間伐
後期の延長	平成24/10/22	平成25/11/25	間伐	間伐
後期の延長	平成24/10/22	平成25/11/25	間伐	間伐
遠索伐期	平成24/10/22	平成25/11/25	間伐	間伐

▲システムの計画作成画面

### ◆森林経営計画の作成手順

以前からある森林施業計画のシステムでは、認定権者である市町や県職員向けのシステムはありましたが、計画の作成者のためのシステムはありませんでした。今回開発した、森林経営計画作成支援システムでは、市町・県職員が使用している専用のシステム（森林情報システム）がない通常のパソコンでも、森林経営計画書の作成ができるシステムであり、市町・県農林事務所にて無料で配布を行っています。

森林経営計画の作成に取り組もうとする森林所有者や林業事業者の皆様は、最寄り農林事務所、市町役場へ、お申し出ください。

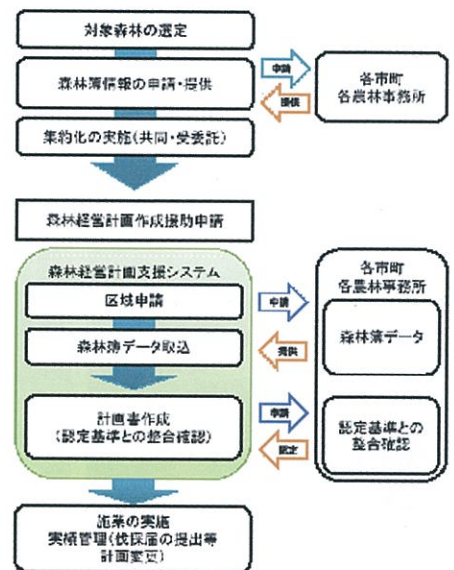
森林経営計画作成支援システムで、森林経営計画を作成する場合は、森林簿情報のデータが必要となりますが、事業者版システムには、初期状態では森林簿情報が含まれていません。事業者版システムで、新規の計画を作成する場合は、計画対象森林が一つの市町内の場合は、管轄する市町へ、計画対象森林が県内二つ以上の市町をまたがる場合は、管轄する農林事務所から、森林簿情報を取得する必要があります。農林事務所から、森林簿情報の提供を受ける際には、県ホームページから、森林経営計画作成援助申請書をダウンロードし、必要事項を記入して提出してください。事業者版のシステムは、市町・県職員用のシステムと、ほぼ同じ仕様となっており、伐採・造林・保育計画の作成や、認定基準を満たしているかを判定することが可能となっています。

ただしシステムでできるのは、5カ

年間の森林施業の計画の入力と計画量の認定判定だけであり、森林経営の長期の方針や森林の保護に関すること、路網の配置や計画図面の作成など、森林経営計画書の大半は、計画作成者が作っていくことになります。

### ◆おわりに

森林経営計画作成支援システムは、今年度の4月から本格稼働されたばかりです。改良が必要な点が報告されており、今後修正していきます。これからシステムを活用していく中で発見した改善案や不具合等がありましたら、農林事務所等へ情報提供をお願いします。



▲森林経営計画の作成手順



H18写真コンクール入賞作品より



# 本部情報

## 【優れた森林土木工事は、優れた技術力から】

山林協会では、治山・林道・森林コンクール受賞者の皆さん、おめでとう!!

整備等工事の中で、施工の優れた工事や木材を積極的に工夫して使用した施工者を顕彰し、森林土木技術者の育成と施工者の技術向上を図る「治山・林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各農林事務所から多数の推薦を頂き、慎重な審査の結果、エ

ントリーされた下記の工事に対し山林協会賞を授与することとなり、10月31日に表彰式を執り行いました。

工事は、工事評定点が高いことは勿論のこと、急峻で狭隘な作業現場条件を克服するための仮設や現地発生材の活用など、優れた技術力や創意工夫が高く評価されました。

受賞者	施行地	工事名
(株)繁美建材土木	下田市	23治山(予防)大方工事
河津建設(株)	河津町	23治山(減災対策)大鍋川1工事
西伊豆貨物自動車(株)	松崎町	23治山(地域防災)牛原工事
(有)古屋組	富士宮市	22治山(復旧)狂入(くるいり)工事
(株)柳澤組	川根本町	22治山(緊急)細尾工事
(株)庭仁	磐田市・袋井市	23県単治山(保安林機能強化)湊工事
(有)丸石建工	浜松市天竜区	22治山(水源地域)光南地区 光南3工事
(株)井出組	富士市	23集落間林道整備 大測線1工区工事
原田建設(株)	沼津市	22森林整備加速化・林業再生事業(林内路網)西浦足保線工事



下田市 (株)繁美建材土木



河津町 河津建設(株)



松崎町 西伊豆貨物自動車(株)



富士宮市 (有)古屋組



磐田・袋井市 (株)庭仁



天竜区 (有)丸石建工



沼津市 原田建設(株)



川根本町(株)柳沢組 【長官賞】



富士市(株)井出組 【大臣賞】

その中でも特に優れた「22治山(緊急)細尾工事((株)柳澤組)」と「23集落間林道整備 大測線1工区工事((株)井出組)」の2件を、(社)日本治山治水協会・日本林道協会が主催する工事コンクールへ推薦したところ、それぞれ林野庁長官賞、農林水産大臣賞を受賞することになり、11月12日、東京のルポール麹町(旧麹町会館)で賞を授与されました。

静岡県では、大臣賞と長官賞のダブル受賞は平成16年度以来8年振りの快挙となりました。

## 事務局だより

\* 現在、静岡市の駿府城公園内で坤櫓(ひつじさるやぐら)の再建工事が、木造による本建築で進められています。坤(ひつじさる)は南西を指し、南東角にある巽櫓(たつみやぐら)と対になるもので、4月に安全祈願祭が行われ、既に一二層の建て方が完了し、骨格が見えてきました。

\* 完成予定は、工事看板によると来

年の12月だそうです。一昨年から安倍川上流の玉川地区のヒノキなど、主に県内からの木材を調達し、建築準備を進めてきました。



\* 山林協会の執務室は、工事の全景を確認することができる絶好のビューポイントとなっており、日々移り変わる出来形を確認することができました。しかし、今は建物全体がシートで覆われ、中の様子をうかがい知ることができません。シートが外れた時、改めてお知らせしたいと思います。(橋本)

「森と人」 公益社団法人 静岡県山林協会  
編集・発行 静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F  
TEL: 054-255-4488/FAX: 054-255-4489



# 平成24年度 しずおか森林写真コンクール入賞作品



は、霧に包まれた山中の作業風景です。霧がもたらす幻想的な雰囲気と、神秘的な深い森を感じさせる美しい作品になりました。

高山欣也氏（静岡市駿河区）の「天日乾燥させて」は応募作品の中でダントツに痺れた作品です。周辺をカットしてワンポイントだけに焦点を合わせ、主題を際立たせた技法はさすがです。幾何学的模様も面白くインパクトのある作品です。

深沢真氏（下田市）の「高原のツリーハウス」は、大人も登って見たくなるよ

うな立派なツリーハウスです、青い空と高原の緑が美しく描かれており、子供達の声が伝わって来るような作品です。ただ、子供達の表情が見られないのが残念です。

小柳津友次氏（静岡市葵区）の「松並木」は、美しい赤富士をバックに松並木を写した作品です。安倍川沿いの並木と思いますが、市内からこんなに美しい富士が撮れるとは驚きです。少ないチャンスをものにした努力が買われます。

その他、入選に20点が選ばれました、中でも、飯田忠雄氏の「山里の祭りの日」、渡辺玲子さんの「神聖な森」、桑原健二氏の「山上の楽園」など力作でした。

また、今回は30回目の節目の年となります。多数の応募を期待して講評といたします。

## 林道

仲野 四郎（静岡市）  
撮影地：静岡市葵区 井川奥

最優秀賞



## 審査講評

審査委員長  
三井章二

森林写真コンクールも今年で29回目を迎えました。作品の対象も、単なる林業写真から山村の生活、風景、レクリエーション等々と幅が広がり、写真のレベルも年々向上して、立派な写真コンクールになりました。

今年度も224点の応募があり、いずれも力作揃いで審査も大変苦労しました。

審査は、9月12日に7名の審査員により行われました。

最優秀賞の静岡県知事賞には、仲野四郎氏（静岡市葵区）の「林道」が選ばれました。

急峻な斜面を蛇行して上る林道を、素晴らしいカメラポジションから撮影した傑作です。芽吹き始めた大木を手

前に入れて遠近感を強調し、柔らかな光で雄大な深山を捉えた美しい作品です。

特選の静岡県山林協会賞には、佐藤美栄子さん（静岡市駿河区）の「ひのきの里」と、青木忠平氏（焼津市）の「紅葉林の散歩道」の2点が入りました。

「ひのきの里」は、市場の土場で、ヒノキの丸太をリフトから降ろす作業員の姿を巧みに捉えています。前景に立派なヒノキの小口を配置した構図と、カメラアングルが素晴らしかったです。

「紅葉林の散歩道」は、ピントもシャープで、紅葉の鮮やかな色彩が目を引きました。

逆光を巧妙に使っており、紅葉を写すお手本のような作品です。

準特選には5点が選ばれました。山崎俊泰氏（掛川市）の「木登りに挑戦」は、楽しそうで元気な子供達の写真です、必死に登ろうとする子供の一人ひとりの情景が面白く捉えられていて迫力のある作品です。

諸田耕治氏（川根本町）の「森人」





特選

ひのきの里

佐藤 美栄子 (静岡市)  
撮影地：富士市 富士木材センター



特選

紅葉林の散歩道

青木 忠平 (焼津市)  
撮影地：修善寺町



準特選

木登りに挑戦

山崎 俊泰 (掛川市)  
撮影地：袋井市 小笠山運動公園



準特選

森人

諸田 耕治 (川根本町)  
撮影地：川根本町



準特選

天日乾燥させて

高山 欣也 (静岡市)  
撮影地：藤枝市岡部町



準特選

高原のツリーハウス

深沢 真 (下田市)  
撮影地：東伊豆町 稲取高原



準特選

松並木

小柳津 友次 (静岡市)  
撮影地：静岡市



入選

山里の祭の日

飯田 忠雄 (静岡市)  
撮影地：静岡市 有東木





入選

**神聖な森**

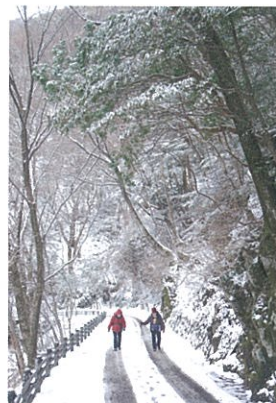
渡辺 玲子 (松崎町)  
撮影地：伊豆市 伊豆山稜線



入選

**山上の楽園**

桑原 健二 (静岡市)  
撮影地：静岡市 だいらほう



入選

**雪の天城林道**

望月 正晴 (静岡市)  
撮影地：伊豆市 天城峠



入選

**新緑を渡る**

杉本 昌弘 (藤枝市)  
撮影地：川根本町



入選

**樹林ハイキング**

平井 健司 (静岡市)  
撮影地：静岡市 つたの細道



入選

**山里の春**

大塚 美代子 (静岡市)  
撮影地：静岡市 足久保



入選

**大きな樹の下で**

稲葉 浩哉 (静岡市)  
撮影地：富士市 岩本山公園



入選

**セミ捕るぞ〜っ!**

木下 安雄 (浜松市)  
撮影地：浜松市 県立森林公園



入選

**雲海の森**

四ノ宮 勝司 (焼津市)  
撮影地：静岡市清水区





入選

禊ぎを終えて

永田 勇 (静岡市)

撮影地: 富士宮市 村山浅間神社



入選

森に遊ぶ

杉浦 芳男 (浜松市)

撮影地: 浜松市 引佐地町



入選

間伐体験

寺田 稔 (静岡市)

撮影地: 富士宮市 白糸財産区内



入選

夏を楽しむ

平野 スエジ (磐田市)

撮影地: 浜松市 下阿多古



入選

一休み

加藤 義昭 (浜松市)

撮影地: 浜松市 秋葉山



入選

木材搬出

森 勇 (静岡市)

撮影地: 静岡市 玉川



入選

時代の中で

鈴木 信子 (森町)

撮影地: 浜松市 阿多古



入選

朝のインターチェンジ

鷹野 節二 (磐田市)

撮影地: 浜松市 引佐町東黒田



入選

ママ上手だなー

藤井 昭浩 (松崎町)

撮影地: 西伊豆町



入選

緑陰

大橋 哲郎 (磐田市)

撮影地: 浜松市 県立森林公園